

佐賀県伊万里市が「黒澤明記念館」を設立しようとしたことがある。黒澤明監督が「乱」

のロケハンで唐津から伊万里の海を眺めて、夕日を褒めたこと

があるらしい。それが記念館設立の理由らしかった。古原和子さんも設立に奔走されたようであったが、頓挫した。わたしは関係者に「慎重になさう」と意見を具申したが、聞き入れてはもらえなかった。不徳の致すところである。「やっ

かんでいる」と取られたのかも
しれない。親父は親父、息子は
息子。

黒澤明監督には東宝の撮影所

でお会いしたことがある。確か
「ダイナマイトどんどん」の編
集を東宝撮影所で手伝っていた
夜である。わたしの映画の師匠

黒澤明監督の微笑

澤明はなかなかの役者ぶりであつた。しかし、わたしにとつてはこの上もない喜びであつた。「七人の侍」を見た少年時代から憧れの映画監督であつた。我が家は小田急線の向ヶ丘遊園駅にある。成城の東宝撮影所

れがとんでもない勘違いである
と知るのには、映画を繰り返し見
ることができるようになったか
らである。
わたしも映画館に足を運ばな
くなった。昔は、新宿や渋谷ま
で映画を見に足を運ぶことをい
とわなかつた。いまは「どうせ、

は岡本喜八監督である。黒澤明
監督は「乱」の撮影中ではなか
つたか。あの独特の帽子をかぶ
つた長身の黒澤明監督が、身を
かがめてベンツに乗ろうとして
いた。わたしと目が合うと、サ
ングラスの黒澤明監督は微笑

はすぐそこである。東宝撮影所
にはいろいろな映画の撮影で通
つた。どの映画会社のマークよ
りも東宝映画のマークは輝いて
いた。東宝は映画監督が映画を
撮っているというイメージがあ
つた。日活も東映もスターの映

すくDVDになるさ」である。
時代が便利になると、怠け者が
多くなる。ただ、やはり映画は
スクリーンで見なければいけな
い。
黒澤明監督のすごさはシネマ
スクープの隅々まで目を配った
すごさである。「用心棒」のけ

んかの場面でも、やくざの群れ
の隅っここの役者までがすごい芝
居をしている。「黒澤作品に出
られれば群衆の一人でもいい」
とわたしにいったのは俳優の佐
藤允さんであつた。允さんは岡
本喜八監督の「独立愚連隊西へ」
で主役を張った人である。わた
しはこの映画を伊万里で見た。
允さんが佐賀の神埼生まれと知
って親近感を持った。
岡本喜八監督に「映画監督に
なりたい」と手紙を書いたのは
昭和37年、高校2年の春であつ
た。住所は親戚の女の人が読ん
でいた芸能雑誌「平凡」で知っ
た。丁寧に丁寧に何回も清書し
た。ラブレターでもあんなには
清書はしない。
(松浦市出身)